



## 全校授業研究会 中学部

### 中学部3年 生活単元学習

### 中3ふしぎ発見～新作フライドポテトでおもてなし～

7月に行われた全校授業研究会の様子をお伝えします。中学部3年は共通のテーマとして「ふしぎ発見」を掲げ、自分たちの力でやってみたくて実現する中で、課題解決を積み重ねる学習活動を展開しています。今回はフライドポテトの調理と提供を中心活動とした授業でした。生徒の生涯学習力を育むことを目指した本校の「わかはとシステム」による実践の一部をご覧ください。

## わかはとシステムによる授業づくり

○生徒との面談、保護者との面談による、「夢や願い」の聞き取り・見取り



Assessment



生徒

- ・ポテトが食べたい(昨年)
- ・作ったものを振る舞いたい。
- ・みんなで楽しみたい。



保護者

- ・人とやり取りする力を付けてほしい。
- ・役割を理解して取り組んでほしい。
- ・心身の安定を図ってほしい。



教師が子どもに願う姿

- ・失敗を恐れずにどんどん挑戦してほしい。
- ・自分で問いを見出せるようになってほしい。
- ・人に感謝される経験を積んでほしい。

### 「わかはとモデル」に基づいた目指す姿

【人とつながる】&【情報を集める】

～人との関わりの中から新しい知識を得たり、情報を整理したりする。

【情報を集める】&【試す】

～経験したことを基に、自分なりの方法を伝えたり、関連する情報を調べたりする。



Plan

### 生活単元学習 「中3ふしぎ発見～新作フライドポテトでおもてなし」

生徒たちは中2のときの話し合いで出た「ポテトを食べたい」という声をきっかけに、これまでジャガイモの栽培、レシピ調べや調理などの活動に取り組んできた。さらに小中学部の仲間や園児など、多くの人に振る舞った。中3になった今年、修学旅行で専門店を訪問することで、生徒の思いや願いが変化し、より主体的に取り組む姿となるよう期待する。

### つながりミーティング

・修学旅行での学び、その事前事後学習は重要。試食会やアンケートなどで多くの人の声を集めたい。 → 修学旅行で実際に見聞きしたことを整理し、調理や接客などの場で実行する。試行錯誤する展開とし、一つ一つクリアすることを評価してもらえたら良い。



### 目指す姿につながる仕掛け

#### 修学旅行で本物(専門店)に触れる



実際のお店で見聞きして、自分たちに取り入れたいものを取材

#### 話し合い活動



自分の考えを話す。友達の見解を参考に考える。

#### その場で「おいしい」と言ってもらえる試食会



相手を意識した実際の場。お客さんの声そのまま自分たちの評価に。



### 中3 ふしぎ発見! ~新作フライドポテトでおもてなし~

#### 試食会の実施

(先生方に感想をもらう)



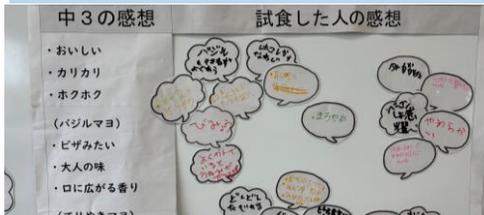
会次第を手掛かりに自分たちで進行を行う。

#### インタビューをまとめる



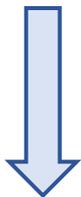
いただいた感想をシートにまとめる

#### <自分たちのポテトの特徴について「いただいた言葉」を見合う>



お客さん役の先生の声を「吹き出し」に書き出す。

### 研究授業



### 授業研究会

協議題 「自分の考えを伝える姿」「他者とのやり取りの中で新たな気づきを得る姿」  
につながるねらいや支援について

生徒の姿

有効だった手立て

改善点

協議より



### Check

#### 意図したシナリオをもつ

試食したポテトが「微妙」という感想を受け、固まる生徒R。

新たな気づき、次の学びにつなげる機会としたい。

- ・インタビューを受ける先生には仕掛人となってもらい、「微妙」などのように、ハッとするような答えを言ってもらい、さらなる学びの機会につなげる。
- ・本時での出来事を全員で共有→みんなが自分事として捉えられるような働き掛けを。

#### 生徒の発言、行動への意味付け

おもてなしできて嬉しかったと発言した生徒S

直接「おいしい」と言ってもらえる過去に経験した状況、

新作のネーミングすることへの意識を高めたい

- ・おもてなししたい動機付けとポテトをネーミングすることとの関連を分かりやすく示す。

- (自分の考えを伝える、他者とのやり取りを生むために)
- ・試食してもらう先生の感想、生徒自身から出てきた言葉をカテゴリー分け、意味付けすること、これらによって思考を働かせる手立てとしたい。

#### 教材の価値をさらに高める教師の役割

先生から受けた感想コメントをシートにまとめる際、記録した動画をよく見ていた。

自分たちの考えとコメントとを比較できるワークシートが有効

友達同士のやり取りにつなげたい。

(生徒同士で伝え合う状況とするために)

- ・話し合いのゴールを明確にすること→教師の役割となりえる。
- ・グループのリーダー同士の意見交換などの場の設定も有効ではないか。

### 研究協力者の先生から

#### <秋田大学教職大学院教授 藤井慶博先生>

- ・自分の「押し味」を担当するグルーピングにすることで、さらに強い動機付けとなり得る。
- ・単元が計画的、継続的に構成されている。子どもたちにとって、「ポテト」という題材が学校生活のテーマ、自分の学びのテーマとなっていた。
- ・修学旅行で「フライドポテトを巡ろう」と言い出したのは、生徒自身なのかどうか。「こうしたい」「だから調べたい」「どうやって調べようか」という声が生徒自身から出てくるようであれば、この授業はさらに深まっていく。
- ・本時のめあてが本時の学習課題として生徒に問いとして迫るようなものであると良い。
- ・(時間の制約上やむを得ないが)生徒が試食した先生からいただいたコメントから、本時のうちにポテトのネーミングまで到達できると一連の流れとしてスムーズであった。
- ・単元終了後、生徒自身が「何が」「どのように」できるようになったかという成果を実感するために、どのような方法があるのか、授業者の準備が大切な点である。

#### <秋田県総合教育センター主任指導主事 島津憲司先生>

- ・グルーピングの工夫で、さらに生徒の思考や動きを活性化させることができるかもしれない。
- ・インタビューで聞いた言葉をすぐに黒板上に示すことで、みんなが調査の状況を知ることができる、新たな反応が生まれる、調べること自体に楽しさを見出す、などの効果が期待できる。
- ・「わかはとモデル」の表の中に、生徒全員の名前(イニシャル)を入れて見てみると、クラスの状況を客観的に把握できるかもしれない。生徒同士がお互いに高め合うためのヒントにもなり得る。
- ・「わかはとモデル」の視点のみに力点を置くあまり、生活単元学習の特徴の一つである「集団で学ぶ」よさを失うことのないよう、『全員でテーマを共有しているか』『一人一人がテーマに沿った活動に共に取り組んでいるか』などのポイントも押さえていきたい。
- ・生徒にも「わかはとモデル」の視点を分かりやすい言葉で押さえられたら、「生きる力」や「生涯学習力」の高まりにつながるのではないかと。